

2010（平成 22）年 4 月 16 日

学校法人城西大学創立 45 周年記念式典

理事長あいさつ

本日は、学校法人城西大学および城西大学の創立 45 周年の式典に皆さまご出席くださいまして、誠にありがとうございます。学校法人城西大学は 2005 年に創立 40 周年を祝いました。それからはや 5 年が過ぎ、新しい世紀、21 世紀も年を重ねて、この世紀を生きる新しい世代の若者たちのための教育を、城西大学はまた新たな一歩として方向を見据えながら、新しいミッションへ向かってこれまで進めてまいりました。

世界経済の流れが、そして世界の社会構造がますますグローバル化し、それに伴って人材育成を担う大学教育の在り方が大きく変容を迫られてきたことで、城西大学はまず海外の大学との姉妹校を従来の北米の諸国をはじめ、中国、そして東アジア、東南アジア、オーストラリア、そしてヨーロッパ、アフリカへと広げていき、海外教育も共同大学院の設置やダブルディグリー制度の推進を通して、共同での教育と研究へと大きく踏み出してまいりました。

日本国内では地域との連携教育を推進し、この 5 年間で大きな前進をしてきたと思います。少子高齢社会はますます加速して、医療や介護の人材不足が厳しくなり、社会保障や医療、介護保険、地球温暖化と安心・安全への対策、生産力の向上と格差の解消など、将来の社会制度をつくり、それを担う人たちは新たな学際的な思考能力、視点、実践力、コミュニケーション能力を必要としていきます。このような社会人を育成することは、大学だけではできるものではなく、地域や自治体、企業との連携教育が必要です。城西大学は社会の各分野での連携関係を広げることへと努力してまいりました。

振り返りますと、学校法人城西大学は歴史的な転換や時代の流れの変化の中で、創立後の過去 45 年間で幾つかの大きな事業をしてまいりました。その 1 つは女子短期大学の設

置です。女子の進学率が向上し、女性が家庭を守るだけでなく、社会で働き生産者として役割を担うことが要請されていく中で、城西大学の女子短期大学は設立されました。

1987年には男女雇用均等法が、そして1997年には女子の大学進学率が男子のそれを上回り、そして1992年には男女共同参画社会の基本法が制定されていくという、日本社会の大きな流れに対応するものでした。女性は家庭か仕事かの二者択一ではなく、仕事も家庭もその両方を担うという社会的役割を与えられるようになり、働く者としての基本的な能力の開発が急務だったのです。

学校法人が行った2つ目の大きな事業は、城西国際大学の創立でした。少子化、18歳人口が減少していく中で、城西の教育と経営基盤の強化のために、関東地域に、中でも茨城、神奈川につながる千葉県に、新しいグローバル教育の拠点として城西国際大学が創立されました。東金市からの誘致を受けて発足した大学は、地域への貢献と地域と一体となった教育を実践することを目標としてまいりました。鴨川市からも誘致を受けて、観光学部、そして情報産業の中心である幕張にもキャンパスを設け、千葉県の中の総合大学として自治体、企業との連携を深めてまいりました。

時代の節目における法人の教育事業の3つ目のステップは、東京紀尾井町キャンパスの設置でした。世界のグローバル化が進むに従って、日本社会の都市集中傾向がますます顕著になり、就職活動を含む教育連携の機会が東京に集中していくことが明らかになってきました。城西大学の紀尾井町キャンパス構想は、人材育成の拠点を東京にももう1つ置き、世界の大学へとつなげていく拠点とするというものでした。

城西大学も城西国際大学も、従来の基礎学問領域とそれに依拠する教育分野に加えて、社会が必要とする人材を輩出するという大学教育の本来的な役割に応えるために、経営学部、現代政策学部、そして薬学部の中に医療栄養学科を設置し、城西国際大学ではメディア学部、介護人材育成のための福祉総合学部、観光学部、そして環境社会学部を設置してまいりました。それから同時に短期大学の再編成も行い、大学院の充実も行ってまいりました。これらの方向性はこれからも推し進め、基礎教育の強化とともに人間教育と人材育

成が一体となった教育を目指し、それを目標としていきたいと思いをします。

少子化が進む一方で新しい大学が次々と設置されて、大学が教育内容においてばかりでなく、生き残りをかけて競争しなければならない時代に向かっていく中で、学校法人城西大学が目指したのは健全経営であり、そのことによる経営、財政基盤の強化でした。大学経営にとって、これは根幹となる経営方針であると思いますが、経済不況が長引く日本において、また教育が国際競争にさらされていく中で、信念を持って健全経営を貫くためには、教職員全員の一丸となった取り組みが必要でした。城西大学はその点で大変幸運であり、教職員をはじめ父母後援会、同窓会の一丸となった努力と協力支援は、城西大学が今45周年を迎えるに当たって感謝の念を持って振り返るものであり、また誇りに思うところでもあります。

城西大学はスポーツによる人間形成をも目標としてまいりましたが、創立以来、野球部は3度のリーグ優勝、女子駅伝部は2度の全国優勝を成し遂げ、男子駅伝部は今年シード権獲得という成果を収めることができました。その他のスポーツ部、そして課外活動においても活発な活動を繰り広げ、学園祭、高麗祭を盛り上げ、楽しく意味のある学生生活をつくり上げ、地域の方々にも応援され愛される活動を盛り立ててまいりました。

日本社会の人口減少、少子化そして高齢化はこれからも進むと考えられます。大学として取り組まなければならない社会貢献は実に多くあります。研究においても、教育においても、一私立大学のできることは限られていますが、それらに真摯に取り組んでいきたいと思っております。

来年は城西国際大学の創立 20 周年を迎えます。また学校法人城西大学そして城西大学の創立 50 周年も、もうすぐ道の向こうに見えております。これからも少子化、グローバル化、高齢社会化はますます進んでいき、その状況下での経営、教育を、そしてその教育が可能な運営、経営体制をつくっていかねばなりません。50周年へ向けて、城西大学は建学の精神である学問を通しての人間形成を教育により良く反映し、教育力を高めて人間性の高い人材を育成するために、今以上の努力をしていかなければいけないと思いをします。

高度の専門職業人の育成と、社会人としての基礎能力を持つ国際人を育成し、社会から高い評価を受ける大学へと変わっていかねばなりません。

創立以来、城西大学も城西国際大学も父母後援会、同窓会という支援団体、そして埼玉県、千葉県、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、東金市、鴨川市をはじめとする千葉県の多くの地域の方々から、厚い支援と応援をいただいております。経済状況の悪い中でも卒業生を採用して下さる企業の方々の応援もあり、高い就職率、良い就職実績を維持することができました。城西大学は高等学校からも信頼を受けて、入試においても地域に定着し、かつ全国から入学生が集まってくる大学に成長してくることができました。

このようなありがたいご支援を大切に、これからはさらに社会や城西大学と関連のある方々の期待と信頼に応えられる大学になるべく、努力をしていきたいと思っております。さらに、城西大学、城西短期大学、城西国際大学を選んで学びに来る学生たち、そして留学生の方々が人生の最も大切な時期を過ごす学びの場所、そして素晴らしい青春を過ごすことのできるキャンパスとなっていきたいと思っております。

ご来賓の皆さまには、これからもより一層のご支援とご指導、ご鞭撻をいただけるよう、心からお願い申し上げます。そして城西大学、城西国際大学、城西短期大学の学生、そして教職員の皆さん。人間性を鍛え、高めることが学ぶことにおける目的であることをあらためて心に刻み、そして教職員の皆さんには、未来を担う人たちを育成するという素晴らしい仕事に従事できることに感謝し、その責任をしっかりと果たせるように、そして城西大学がこれからますます社会に貢献のできる、そして学生の皆さんとともに、何よりも私たち自身が誇りに思うことのできる大学であり続けるために、心を合わせて努力をしてまいりましょう。

創立者、そして創立に当たられた方々、これまで運営に当たってこられた名誉理事長をはじめとする理事、監事、評議員、そして退職された多くの教職員の方々のご尽力に感謝申し上げますとともに、城西大学のよき伝統をこれからもしっかりと学び、さらに大きく花開いていくように努めることを、ここにお誓いしたいと思います。

本日は学校法人城西大学、城西大学の創立 45 周年を記念するに当たりまして、東金市の城西国際大学の水田記念ホールで地域の皆さまとともに、この記念の式を持つことができましたことを、心からうれしく感謝申し上げます。遠くからおいでくださいました埼玉県坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町の皆さまには、心から御礼を申し上げたいと思います。ご臨席の皆さまのご健勝と、皆さまの地域のますますのご繁栄をお祈りして、私のあいさつとさせていただきます。